

2020 年 12 月 18 日

The Emerging Markets Weekly

新興国通貨は底堅く推移

新興国市場：先週末の 11 日、アジア時間は前日のドル安が新興国通貨を支えた。ただ、欧米時間に入り、フォンデアライエン EU 委員長が英 EU の通商交渉で合意なしの可能性が最も高いと発言。米追加財政協議の難航も重なりドルが反発し、新興国通貨は反落となった。BRL や ZAR、MXN が売られた。週初 14 日、アジア時間は英 EU 通商交渉の継続合意を受けてドルが反落。朝方弱含んだ新興国通貨は持ち直す動きとなった。欧米時間には、デブラシオ NY 市長が全面的なロックダウンに備えるべきだと発言。米株が下落し、ドルが反発、新興国通貨は下押しされた。米政府機関へのサイバー攻撃疑惑もあり RUB は前日比▲1.0%超下落。経済回復ペースの鈍化が懸念され、BRL も売られた。15 日、アジア時間の新興国通貨は前日のドル反発を受けてやや上値の重い展開となった。欧米時間に入り、英 EU 通商交渉で年内合意への期待が高まるとドルが弱含み、新興国通貨は反発した。MXN は前日比+1.6%上昇。懸案のメキシコ中央銀行 (Banxico) の外貨買い入れ法案の採決延期が決まった。16 日、アジア時間は FOMC を控え新興国通貨は動意の薄い展開。欧州時間に株高が進むと EUR や GBP が上昇、ドルは下押しされ、新興国通貨は小幅に上昇した。米国時間に入るとドルの買戻しが見られたが、FOMC 声明発表後に上昇は一服、ドルは反落となった。東欧通貨のほか TRY や ZAR 堅調だった。17 日、アジア時間は前日の流れを引き継ぎドル安が進展。新興国通貨は堅調に推移した。欧米時間も新興国通貨の堅調さは継続。追加財政支出への期待感等から S&P500 指数が朝方から最高値を更新する中で、リスクオンムードが新興国通貨の支えとなった。TRY と ZAR は前日比+1.0%超上昇した。

アジア：米財務省は 16 日、為替政策報告書を発表。3 つの基準 (①経常黒字 GDP 比 2%、②対米貿易黒字 200 億ドル、③持続的かつ大規模な為替介入) を満たすとしてベトナムを為替操作国に認定した。インドネシア中央銀行は 17 日、政策金利 (3.75%) の据え置きを決定。フィリピン中央銀行も同日、政策金利 (2.00%) を据え置いた。両行ともこれまでの政策効果を見極める構え。

中東欧・アフリカ：米政府は 14 日、トルコのロシア製ミサイル「S400」購入を巡り、対ロシア制裁法に基づくトルコへの制裁発動を発表した。米国や第三国の企業と金融機関がトルコ国防産業庁と取引するのを制限する。トルコ中央銀行 (CBTR) のアーバル総裁は 16 日、インフレ抑制に必要な金融政策をさらに引き締めると発言。CBTR は 24 日に金融政策会合を開催する予定。

ラテンアメリカ：メキシコ下院は 15 日、市中銀行に滞留する余剰外貨の買い入れを Banxico へ義務付ける法案の採決を来年 2 月以降に延期した。同法案を巡っては、金融政策を歪める可能性や、違法な資金が Banxico に流入すればマネーロンダリング (資金洗浄) の制裁対象となるリスク等が指摘されている。Banxico は 17 日、2 会合連続で政策金利 (4.25%) の据え置きを決定した。インフレ率の動向を引き続き見極める。委員 2 名は 0.25% の利下げを主張した。

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト
堀 亮大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(ブラジル)

早くも困難に直面する BCB のフォワードガイダンス

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

ブラジル中央銀行(BCB)は 12 月 9 日、政策金利(翌日物金利、Selic)を過去最低水準となる 2.00%に据え置くことを全会一致で決定した。据え置き判断は 3 会合連続となる。2019 年 7 月以降、計 450bp の利下げが行われており、すでに政策金利はインフレ率を下回るマイナス金利の状態にある(図表 1)。BCB は、前回 10 月会合で言及した一定の条件(①インフレ期待もしくはインフレ見通しが BCB のインフレ目標を明確に下回る、②財政方針に変更がない、③長期のインフレ期待が十分に抑制されている)は満たされているとし、現状の非常に強力な金融緩和を維持することが適切と判断した。

ただし、これら条件に関する見解を示した文言の書きぶりは、①について前会合時のそれから修正されている(下線部)。

The Committee judges that those conditions continue to hold. In spite of having increased since the last meeting, in particular for 2021, inflation expectations, as well as inflation projections for its baseline scenario, are still below the inflation target for the relevant horizon for monetary policy; the current fiscal regime has not been changed; and long-term inflation expectations remain well anchored.

実際のところ、今回の声明文で注目されるのは、BCB 自身がフォワードガイダンスに則った政策金利据え置きは難しくなりつつあることを示唆している点であろう。具体的には先々のインフレ見通しが従来比で切り上がりつつあることだ。

まず、BCB による市場サーベイで比べると、今回合時の 2020 年、2021 年および 2022 年のインフレ率(IPCA)見通しは、それぞれ前年比+4.2%、同+3.3%、同+3.5%である。前会合時はそれぞれ前年比+3.0%、同+3.1%、同+3.5%であった。2021 年の政策金利見通しが前会合時の 2.75%から今会合時は 3.00%に切りあがっていることを踏まえると、2021 年以降のインフレ率見通しは相応に引き上げられた感がある。

また、政策金利を現状(2.00%)から横ばいとし、為替レート(USD/BRL)が現状から購買力平価(PPP)見合いの動きとなることを前提に、BCB はインフレ率見通しを推計している。起点となる為替レートの水準は、今会合時が 5.25、前会合時が 5.60 である。推計結果は、今会合時はそれぞれ前年比+4.3%、同+3.5%、同+4.0%であり、前会合時は、それぞれ前年比+3.1%、同+3.2%、同+3.8%であった。やはり、上述の市場サーベイ同様の傾向が窺える。

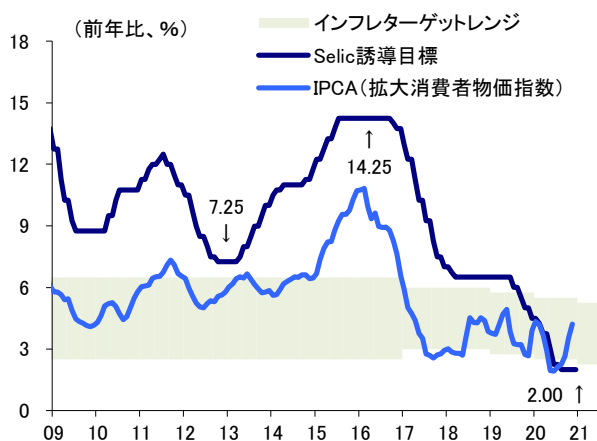
ここで問題となるのが、2021 年および 2022 年のインフレ率見通しが BCB の目標(2021 年:前年比+3.75%、2022 年:同+3.50%)から明確に下回っているとは言えなくなってきた点だ。これは上述の一定の条件の①に抵触する。BCB もこの点についての見解を声明文に盛り込まざるをえず、以下の記述を追加した。フォワードガイダンスの維持が難しくなったとしても、それが機械的に利上げを意味するものではないとし、経済状況が正当化する限り現状の非常に強力な金融緩和の維持は可能であることを示唆した。

A scenario of inflation expectations converging to the target suggests that the conditions for maintaining the forward guidance may soon no longer apply, which does not mechanically imply interest rates increases, since economic conditions still prescribe an extraordinarily strong monetary stimulus.

経済状況を重視するのであれば、当面は政策金利の据え置きが可能かもしれない。ブラジル経済は政策支援もあり COVID-19 前の水準を取り戻しつつあるが、危機対応の給付金支給が年末で打ち切られる予定であり、2021 年に入れば成長ペース鈍化を余儀なくされるだろう。

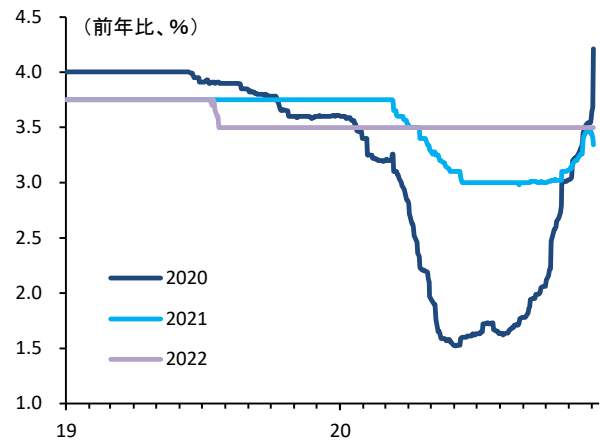
一方で、先進国を中心にワクチン接種の動きが始まっており、早晩ブラジルでも始まる。COVID-19 の収束と経済活動の回復は時間の問題ともいえる。少なくとも景気見通しを巡る不透明感はやや和らいでいこう。また、2022 年の大統領選挙を控えて、ボウソナロ大統領が財政出動に踏み切るとの見方は根強い。足許で小康状態にある財政不安が再燃すれば、上述の一定の条件のうち②にも抵触することになる。こうした点も考慮すると、BCB は 2021 年後半には利上げを再開する可能性が高いと考えておきたい。

図表 1: 政策金利とインフレ率(IPCA)



出所: ブラジル中央銀行、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: BCB 市場サーベイ(年間 IPCA 見通し、予想中央値)



(注) 2020 年 12 月 4 日時点

出所: ブラジル中央銀行、みずほ銀行

市場概観(タイ)

2020 年相場回顧～年明け以降 30 割れは定着するか

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

年末にかけて騰勢が目立った THB

今月上旬、THB は昨年末に続き対ドルで 30 を割り込んだ(図表 1)。米国において大規模な財政・金融両面からの政策が打たれたことで、年後半以降、ドルの過剰感が市場で意識された中、バイデン次期大統領の誕生とワクチン開発関連の報道によりリスクオンの展開が進んだことが追い風となった。

一方、国内では、経済面では新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ景気の浮揚、政治面では王室改革、政権退陣や憲法改正を求めるデモの長期化など懸念材料は残る。ここで、THB が騰勢を強めた要因の整理と、年明け以降の値動きについて展望することとする。

コロナ禍におけるタイ経済

タイは、執筆時点で新型コロナウイルスの感染者を累計 5000 人未満に抑えており、ASEAN 域内でも感染の封じ込めに一定の成果を残した国の 1 つである。とは言え、春先にはロックダウンが敷かれ、生産活動が制限された結果、4～6 月期 GDP は前年比▲12.2%と 1998 年のアジア通貨危機に次ぐ減少幅を記録した(図表 2)。7～9 月期は経済活動の再開に伴って、マイナス幅は縮小したものの、経済回復ペースは緩やかであり、タイ中央銀行(BOT)は感染拡大前の水準まで経済が回復するまでには、少なくとも 2 年を要するとの見解を示しており、今後の景気の浮上は引き続き大きな課題となっている。

THB が買われる要因は

こうした状況の中、THB は年末にかけてアジア通貨危機以降で見ても、かなり高い水準にまで選好された。その理由について、為替変動要因の基本的なアプローチである金利、物価、需給の面から見ていくこととする。

まず、金利について。タイはコロナ禍以前から低成長・低インフレに悩まされており、年初時点で政策金利は 1.25%と周辺国と比べてもかなり低い水準にあった。BOT は今年、新型コロナウイルスの影響で計 75bp の利下げを実施した。ただ、米国がそれ以上のペースで利下げを進めた結果、対米金利差(タイー米国)は逆転した(図表 3)。また、FRB が 2023 年末までゼロ金利維持を示している点も THB が値を上げる下地を整えたと考えられる。

次に物価について。ASEAN 各国のインフレ率はコロナ禍で消費活動が大きく制限されて弱含んだ(図表 4)。これを受けて、各国中銀は自国物価の安定化という使命の下、利下げをはじめ大規模な金融緩和に着手した。タイは元々低インフレ傾向にあったものの、デフレが常態化した。物価の下方硬直は通貨の価値を相対的に押し上げ、THB の上昇に繋がったのではないだろうか。

域内最大の経常黒字国としての地位とドルの過剰供給

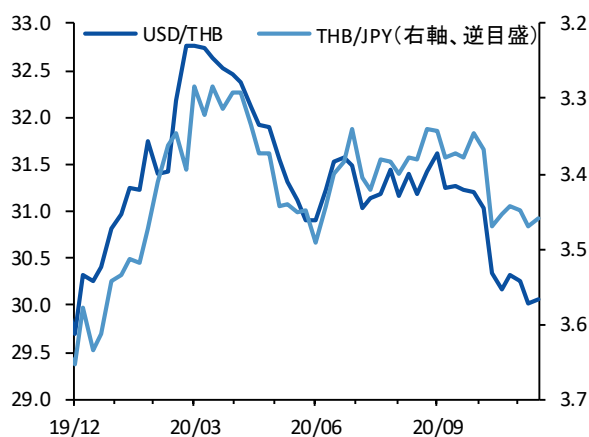
最後に、THB の需給環境につき整理する。今年は新型コロナウイルスの影響で観光業が大きく減速し、サービス収支が剥落した。一方、貿易収支は輸出が伸び悩んだものの、内需の減速によって輸入がそれ以上に落ち込んで、堅調な推移となった。その結果、コロナ禍でも経常黒字を維持している(図表 5)。今後も、新型コロナウイルスの終息に目処が立つまでサービス収支の改善は緩慢となりそうだ。しかし、中国の景気回復をはじめ外需の持ち直しが期待される中、輸出が景気回復のドライバーとなり経常黒字の源泉となることが見込まれる。こうした中、タイは東南アジア最大の経常黒字国であるという地位が揺らぐことは現状考え辛い。国内での政治不安が長期化しながらも通貨高に向かった背景には、かかる需給環境に変化がなかった点が大きな要因と言えるだろう。

その他、新興国通貨全般に言えることではあるが、冒頭で触れたドルの過剰供給についても無視できない。来年にはバイデン次期大統領の下、財政拡張路線が打ち出され、ドルの過剰感が一層意識される展開を想定する。米金利はじわじわと上昇傾向にあるものの、FRB のゼロ金利の当面維持や量的緩和政策の見直しによって上昇は抑えられることが見込まれる。こうした点を踏まれば、ドルの過剰感のテーマの下、ドル安地合いはしばらく継続する可能性が高い。

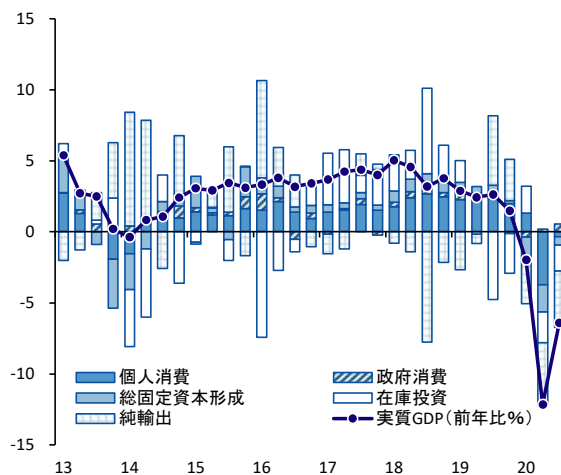
年明け以降に考えられる相場展開は

上述の需給環境に鑑みれば、年明けにかけても THB は高値方向に動く公算が大きい。こうした中、今月上旬に1USD=30 を割り込んだ段階で、BOT は THB 高の抑制措置に踏み切っており、30 割れは当局が意識している水準であるように窺える。過剰な THB 高は輸出環境を悪化させ、国内経済の回復を遅滞させることから、今後も断続的に BOT の介入や金融政策の見直しが入ることも考えられる。特に通貨高の下で低成長・低インフレが展望される場合には、量的緩和政策やイールドカーブ・コントロールといった非伝統的手段の導入にかかる議論の必要性を主張する声も出てくるのではないだろうか。

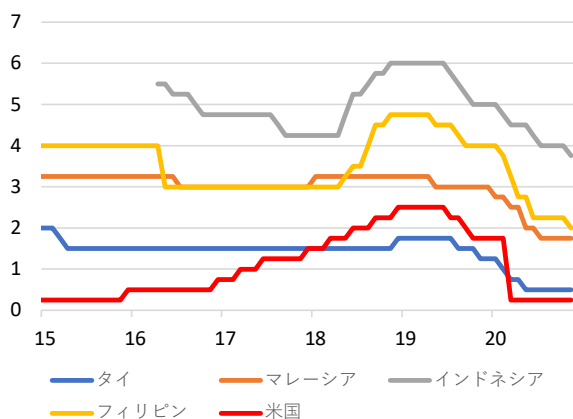
片や、17 日、トランプ政権下での最後の為替報告書にて、タイは為替操作国の監視リスト入りをした。報告書内では、継続した多額の経常黒字の計上と、拡大が続く対米貿易黒字を要因として挙げている。また、「タイは大規模で耐久性のある対外黒字を削減するため、パーツの上昇を容認すべき」との記載も見られており、今後の BOT の弾力的な政策運営にも影響が出ると思われる。こうした中、限られた金融政策の範疇では自国為替相場の軌道修正にも限りがありそうだ。先進国での感染拡大がピークを迎え、米国での追加経済政策の実施が想定される冬場においては、断続的に 30 割れが起きることを想定しておきたい。

図表 1: THB 相場動向


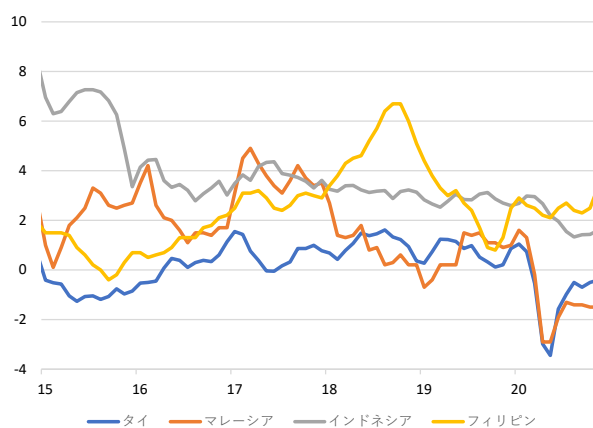
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率(前年比%、%pts)


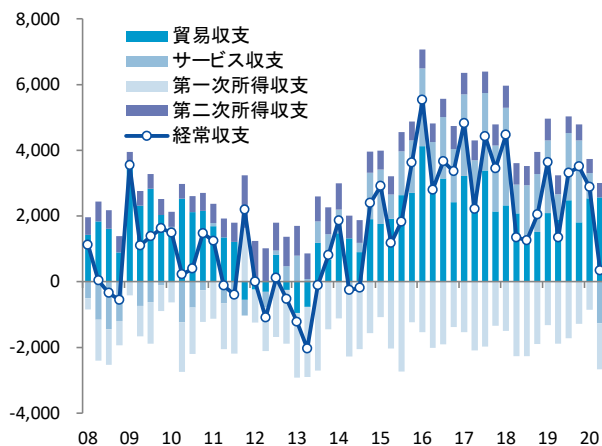
出所: タイ中央銀行、CEIC、みずほ銀行

図表 3: ASEAN 各国と米国の政策金利(%)


出所: インド準備銀行、CEIC、みずほ銀行

図表 4: ASEAN 各国の CPI(前年比%)


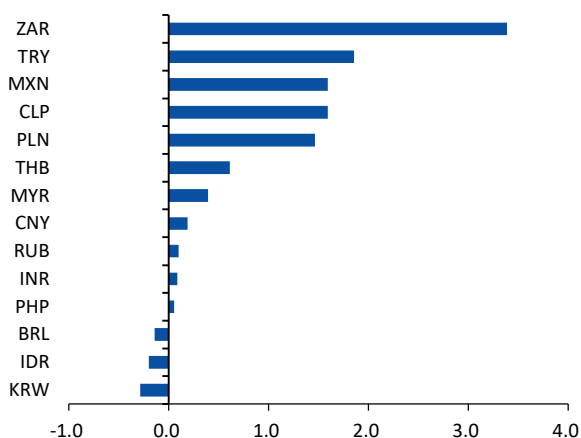
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

図表 5: 経常収支の推移(億バツ)


出所: タイ中央銀行、CEIC、みずほ銀行

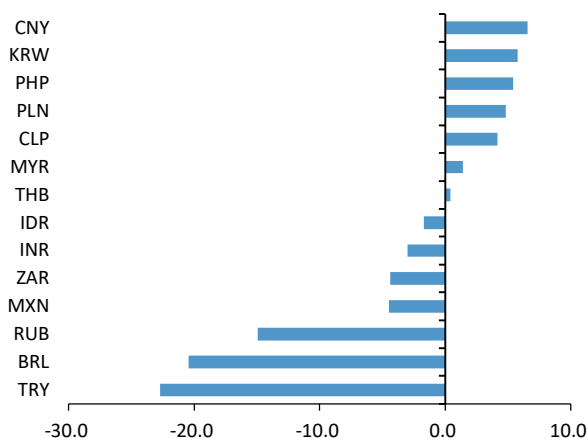
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



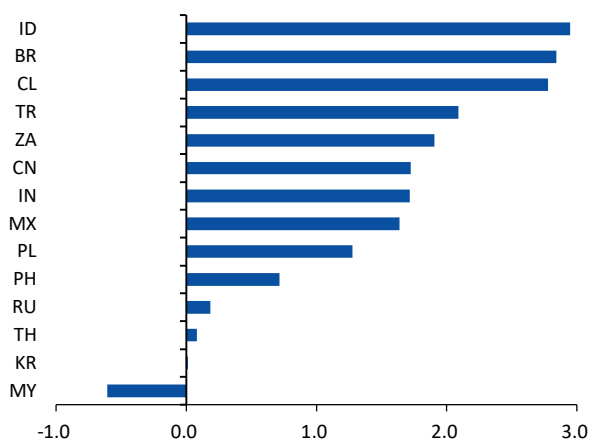
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



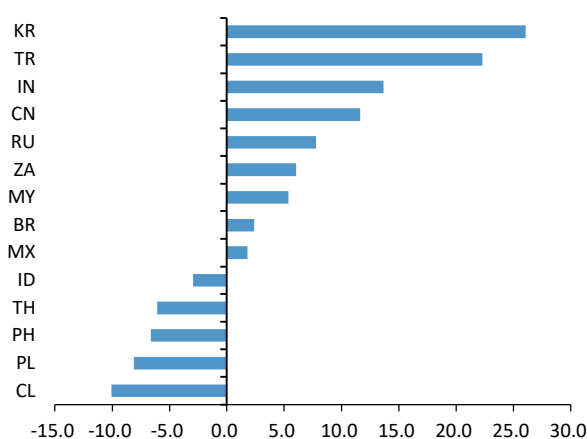
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



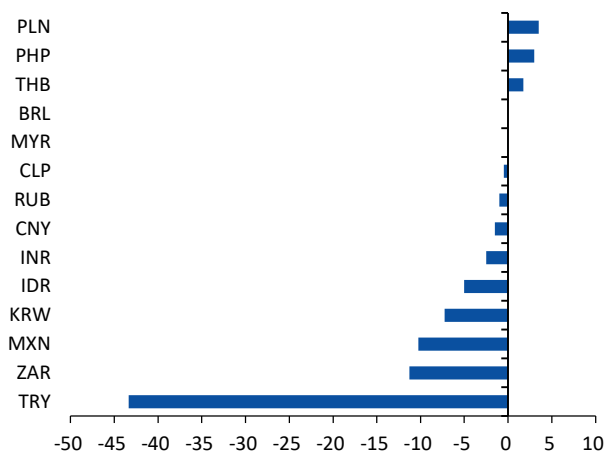
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行, ※中国は休場

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

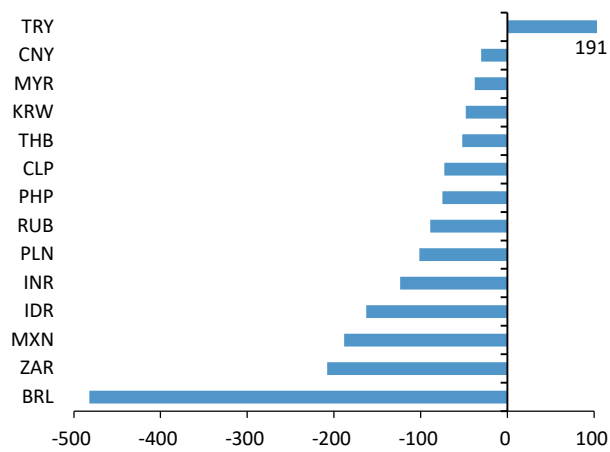
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

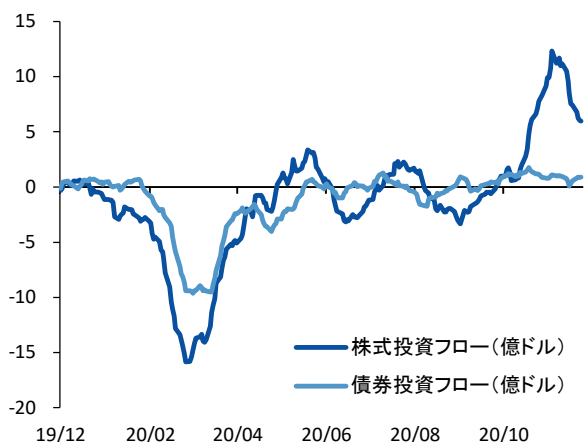
5 年物スワップレート年初来変化(bp)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

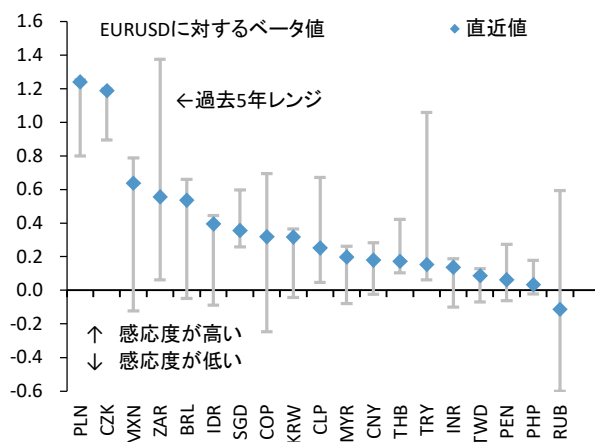
チャート集

主要新興国への証券投資フロー(4週間移動平均)



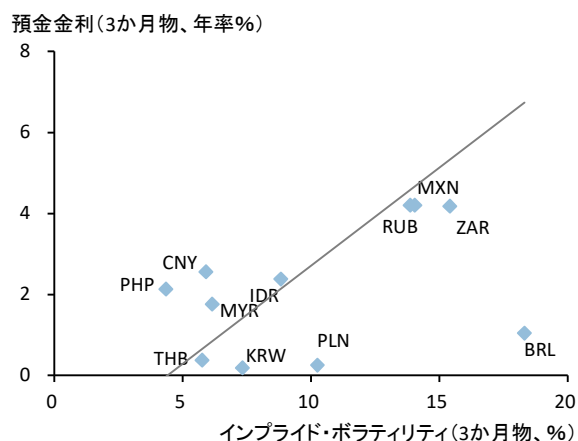
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去12か月)



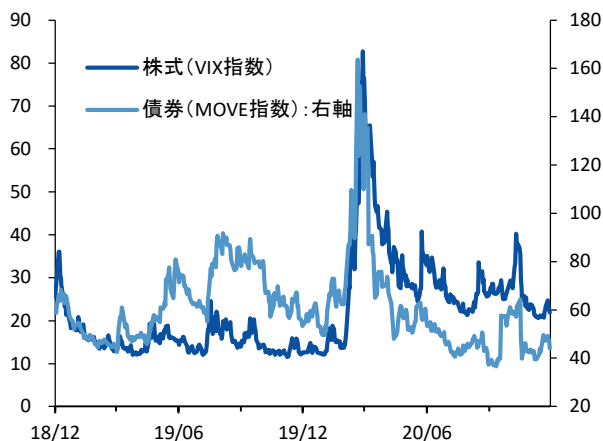
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



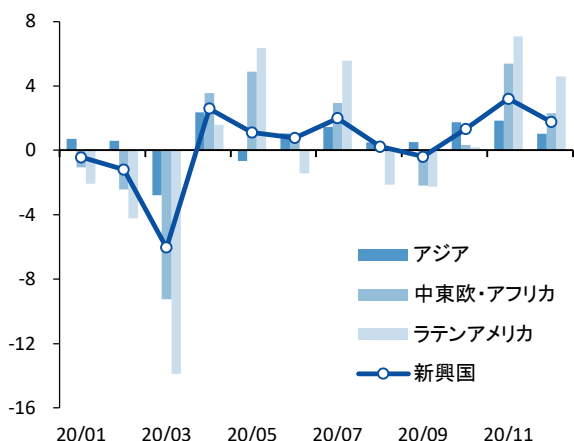
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



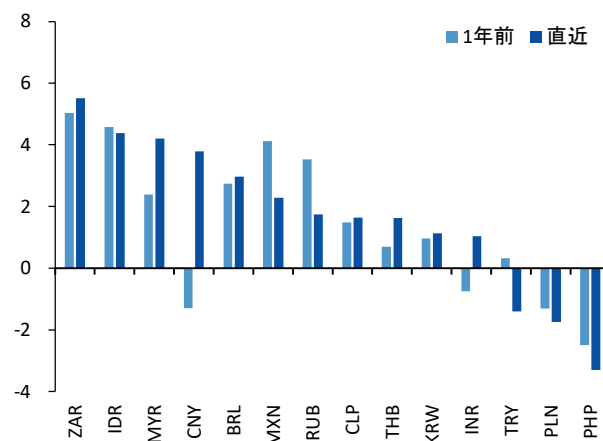
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
12月14日 (月)	インド	卸売物価(前年比)	1.7%	1.6%	1.5%	--
14日 (月)	インド	CPI(前年比)	7.2%	6.9%	7.6%	--
15日 (火)	中国	鉱工業生産(前年比)	7.0%	7.0%	6.9%	--
15日 (火)	中国	小売売上高(前年比)	5.0%	5.0%	4.3%	--
15日 (火)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	2.6%	2.6%	1.8%	--
15日 (火)	フィリピン	海外送金(前年比)	2.2%	2.9%	9.3%	--
15日 (火)	インドネシア	貿易収支	\$2602m	\$2613m	\$3607m	\$3576m
15日 (火)	インド	輸出(前年比)	--	-8.7%	-5.1%	--
15日 (火)	インド	輸入(前年比)	--	-13.3%	-11.5%	--
17日 (木)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	0.3%	-4.9%	-3.1%	--
17日 (木)	インドネシア	インドネシア銀行7日物リバースレホ	3.75%	3.75%	3.75%	--
17日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金金利	2.00%	2.00%	2.00%	--
17日 (木)	台湾	CBC指標金利	1.125%	1.125%	1.125%	--
21日 (月)	台湾	輸出受注(前年比)	--	--	9.1%	--
21-24日	フィリピン	総合国際収支	--	--	\$3440m	--
22日 (火)	韓国	PPI 前年比	--	--	-0.6%	--
23日 (水)	タイ	貿易収支(通関ベース)	--	--	\$2047m	--
23日 (水)	マレーシア	CPI(前年比)	--	--	-1.5%	--
23日 (水)	シンガポール	CPI(前年比)	--	--	-0.2%	--
23日 (水)	タイ	タイ中央銀行指標金利	--	--	0.5%	--
23日 (水)	台湾	鉱工業生産(前年比)	--	--	7.1%	--
23日 (水)	フィリピン	財政収支(フィリピンペソ)	--	--	-61.4b	--
24日 (木)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	--	--	-0.9%	--
中東欧・アフリカ						
12月14日 (月)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	8.4%	10.2%	8.1%	8.3%
14日 (月)	南ア	BER消費者信頼感	--	-12	-23	--
15日 (火)	南ア	PPI 前年比	2.8%	3.0%	2.7%	--
16日 (水)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	-4.9%	-2.6%	-5.9%	-5.5%
18日 (金)	ロシア	主要金利	4.3%	--	4.3%	--
19日 (土)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	-3.3%	--	-2.4%	--
19日 (土)	ロシア	実質賃金(前年比)	1.1%	--	2.2%	--
24日 (木)	トルコ	1週間レホレート	--	--	15.00%	--
25日 (金)	トルコ	実体経済信頼感指数(季調前)	--	--	103.9	--
25日 (金)	トルコ	設備稼働率	--	--	75.8%	--
25日 (金)	トルコ	外国人観光客(前年比)	--	--	-59.4%	--
ラテンアメリカ						
12月14日 (月)	ブラジル	経済活動(前月比)	1.1%	0.9%	1.3%	1.7%
17日 (木)	メキシコ	オーバーナイト・レート	4.25%	4.25%	4.25%	--
18日 (金)	ブラジル	経常収支	\$1000m	--	\$1473m	--
18日 (金)	ブラジル	海外直接投資	\$1200m	--	\$1793m	--
21日 (月)	メキシコ	小売売上高(前年比)	--	--	-7.1%	--
21-29日	ブラジル	税収	136200m	--	153938m	--
22日 (火)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	--	--	0.8%	--
23日 (水)	メキシコ	経済活動IGAE(前年比)	--	--	-5.5%	--
23日 (水)	ブラジル	融資残高	--	--	3872b	--
24日 (木)	メキシコ	貿易収支	--	--	6223.8m	--

注: 2020 年 12 月 18 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2020年 1～11月（実績）	SPOT	2020年 12月	2021年 3月	6月	9月	12月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.5403 ～ 7.1777	6.5338	6.60	6.55	6.50	6.45	6.40
香港ドル	(HKD)	7.7500 ～ 7.7989	7.7524	7.76	7.76	7.77	7.78	7.79
インドルピー	(INR)	70.733 ～ 76.916	73.585	73.6	73.0	74.0	73.8	72.5
インドネシアルピア	(IDR)	13577 ～ 16625	14108	14000	13850	14050	13950	13850
韓国ウォン	(KRW)	1103.05 ～ 1293.95	1093.20	1100	1080	1080	1070	1070
マレーシアリングギ	(MYR)	4.0520 ～ 4.4490	4.0337	4.08	4.03	4.12	4.09	4.04
フィリピンペソ	(PHP)	48.056 ～ 51.959	48.048	48.2	47.6	48.8	49.3	48.3
シンガポールドル	(SGD)	1.3369 ～ 1.4647	1.3260	1.35	1.34	1.36	1.37	1.34
台湾ドル	(TWD)	28.458 ～ 30.533	28.300	28.5	28.3	28.3	28.2	28.2
タイバーツ	(THB)	29.54 ～ 33.19	29.85	30.0	29.6	30.6	30.2	29.5
ベトナムドン	(VND)	23131 ～ 23637	23121	23150	22950	23000	23100	23050
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	60.8833 ～ 82.8729	72.8747	77.00	76.00	78.00	79.00	80.00
南アフリカランド	(ZAR)	13.9326 ～ 19.3508	14.6426	16.00	15.50	16.00	16.50	17.00
トルコリラ	(TRY)	5.8391 ～ 8.5793	7.7012	8.00	8.20	8.00	7.80	7.60
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	4.0049 ～ 5.9700	5.0665	5.50	5.40	5.30	5.20	5.10
メキシコペソ	(MXN)	18.5237 ～ 25.7849	19.8286	20.80	20.60	20.40	20.20	20.00
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	14.567 ～ 16.108	15.757	15.61	15.42	15.54	15.81	16.25
香港ドル	(HKD)	13.020 ～ 14.422	13.305	13.28	13.02	13.00	13.11	13.35
インドルピー	(INR)	1.367 ～ 1.566	1.402	1.40	1.38	1.36	1.38	1.43
インドネシアルピア	(100IDR)	0.642 ～ 0.817	0.731	0.736	0.729	0.719	0.731	0.751
韓国ウォン	(100KRW)	8.408 ～ 9.660	9.436	9.36	9.35	9.35	9.53	9.72
マレーシアリングギ	(MYR)	24.148 ～ 27.278	25.567	25.25	25.06	24.51	24.94	25.74
フィリピンペソ	(PHP)	2.006 ～ 2.213	2.148	2.14	2.12	2.07	2.07	2.15
シンガポールドル	(SGD)	73.18 ～ 81.92	77.79	76.30	75.37	74.26	74.45	77.61
台湾ドル	(TWD)	3.364 ～ 3.708	3.666	3.61	3.57	3.57	3.62	3.69
タイバーツ	(THB)	3.215 ～ 3.729	3.462	3.43	3.41	3.30	3.38	3.53
ベトナムドン	(100VND)	0.4364 ～ 0.4829	0.4461	0.44	0.44	0.44	0.44	0.45
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.296 ～ 1.804	1.412	1.34	1.33	1.29	1.29	1.30
南アフリカランド	(ZAR)	5.610 ～ 7.821	7.045	6.44	6.52	6.31	6.18	6.12
トルコリラ	(TRY)	12.040 ～ 18.875	13.384	12.88	12.32	12.63	13.08	13.68
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	17.901 ～ 27.687	20.388	18.73	18.70	19.06	19.62	20.39
メキシコペソ	(MXN)	4.226 ～ 6.013	5.202	4.95	4.90	4.95	5.05	5.20

注：1. 実績の欄は2020年11月30日まで。SPOTは12月18日の8時15分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。